JPC NEWS

Japan Pentecostal Council

特集「一致」

vol.8

霊的復興のために共に祈ろう

日本ペンテコステ協議会議長
細井　眞

「ある夜、パウロは幻を見た。ひとりのマケドニヤ人が彼の前に立って、『マケドニヤに渡って来て、私たちを助けてください。』と懇願するのであった。」　　使徒の働き 16 章 9 節

3 月 11 日に起こった東日本大震災では、あまりにも多くの被害と犠牲者が出てしまいました。地震と津波と原発という折り重なる要素が被害をさらに大きくしたと言えます。

さて、私の属する AG 教団は青森県、岩手県盛岡、宮城県仙台、福島県に計 10 教会あります。被害は比較的大きくはなく、「守られた」と言うことができます。現在は、いくつかの教会を中心に周辺の地域や被害のひどい地域へ行って救援活動をしており、教団はそれをバックアップしています。また、ペンテコステ協議会を見回してもひどい被災にあった教会は存在しませんでした。私は「守られた」ことを感謝したのですが、それだけでは終わりませんでした。なぜなら、被災の大きい沿岸地域に当教団の教会をはじめ、ペンテコステの教会がなかったことに気付かされたからです。確かに、沿岸地域は漁業に携わる方々が多く、生活と信仰が密着している難しい地域です。私たちはその地域に手を差し伸べていなかったのです。私は心刺され、主の御前で悔い改めさせられました。

私たちは、この時に一致して被災地の復興と同時に霊的復興のために祈り、この地がいやされて神の愛が示され、聖霊様の御支配のある力強い教会が建てられるように祈り求めていきたいと思います。

一致を目指して

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
企画室担当理事　寺田文雄

主の恵みの中で 62 周年を迎えた教団は、400 名を超える日本人教職者と 33 名の宣教師（米国、英国、ボリビア、韓国）が国内 211 教会の働きに携わっています。また、教団宣教師をフィリピン、台湾、米国、カンボジア、モンゴル、香港等に派遣してきました。　創設 50 周年を迎えた記念全国聖会（1999 年）では、教団理念の表明として以下の「アッセンブリー宣言」（3 項目）を告白しました。（紙面の都合で一部説明文を省略させて頂きます。）

1．　私たちの主は真実なお方です。（神の真実の上に教団が存立し）
2．　私たちは主の召しに答えます。（キリストの証人としての使命と召しを信じ、召しに応え福音を証し、祈り行動します。）
3．　私たちはペンテコステの恵みに生き、更に進んで行きます。（神の言葉に立ったペンテコステ信仰

の継承に努め、聖霊による世界宣教のために前進します。）　　（　）内は筆者の要約文。

Ⅰ．教団内部の一致への働きとして

ペンテコステ信仰の共有と宣教の一致のために、基本的教理の共有、聖会の役割、教団歴史と情報の共有を大切にして来ました。

① 世界のアッセンブリー教会の信仰的遺産である「基本的真理（16 項目）の宣言」を 1992 年総会で承認。

② 全国的な交流と宣教の前進のために全国聖会や創立 60 周年記念宣教大会の活用、教区諸活動（教区聖会、青少年、婦人、壮年部活動等）による教区レベルの推進。

③ 教団歴史の共有と継承のために、「教団創立 30 年史」と「創立 50 年史」が発刊され、月刊誌「アッセンブリー」は、信仰の恵みと情報共有のための働きを続けています。

＜教職者間の一致と交わり・研鑽のために＞

多様な賜物と経験を有するＡＧ教職者の一致、研鑽と恵みの共有を図るために、教団・教区・神学校の各種研修会、神学研究と牧会事例発表誌（「講壇」誌、「宣教研究」、「中央聖書神学校記念誌」）の発刊、北海道～沖縄までの 11 教区会での交わりが活用されています。

＜一致を支える実際運営面＞

教区と教団局部活動、財政の要である（教団・神学校・教職厚生）負担金制度、諸規則を審議する代議員制の教団総会、理事会の働き、後進育成の使命を有する神学校の存在が主要な柱といえます。

Ⅱ．キリスト教諸団体との一致への関わり

特筆すべき点として、1998 年の日本ペンテコステ協議会（JPC）の創立への尽力と福音派の大集結といえる日本福音同盟（JEA）への加盟（1988 年）があります。後者との長年の協力関係構築によってペンテコステ陣営への誤解や偏見が払拭されつつあります。国際的な関係では、「世界ペンテコステ大会」「世界ｱｯｾﾝﾌﾞﾘｰ会議」「ｱｯｾﾝﾌﾞﾘｰｽﾞ・ｱｼﾞｱ宣教協力会（AGAMA）」「APTS(アジア太平洋神学校)」「APTA（アジア太平洋神学協会）」災害支援機関である「WAGRA（世界ｱｯｾﾝﾌﾞﾘｰ救済機構）」との定期的交流が上げられます。

Ⅲ．主にある一致へのビジョン

「御霊による宣教力アップ」を標語に掲げ、改革案「リノベートＡＧ２１」の下に宣教力強化を目指し、教職者間、教会間、信徒間における「絆の回復」をキーワードに進んでいます。具体策として、「国内宣教献金」による支援とフラットな関係を軸にした「宣教協力ﾈｯﾄﾜｰｸ」による草の根的な推進を検討中です。

＜日本とアジア・世界の教会の懸け橋へのビジョン＞

「教団 50 年史」には、次のような一節があります。「一方で聖書信仰に立つ福音派の一員としての立場を明確にすると共に、他方でペンテコステ信仰を高らかに標榜しつつ両派の一致を促す真の懸け橋としての役割を担うこととなった。」聖書信仰とペンテコステ信仰に立つ諸教会の懸け橋となり、世界宣教の前進と日本にリバイバルをもたらす聖霊による宣教の一致が私達の願いであり、ビジョンであります。

キリストにあってひとつ

日本ネクストタウンズ・ミッション
三坂正治

東日本巨大地震による日本全土の痛み

3月11日、東関東太平洋沖巨大地震と津波により、多くの犠牲者が出てしまいました。被災者の方々のことを思うとき、涙なくして祈らずにはおれません。被災者の方々には心からお見舞い申し上げます。尚、その痛みをこの後においても共に分かち合っていきたいと願っています。東北が痛めば、日本全体が痛み、世界が痛みを覚えています。東北の痛みは私たち自身の痛みとなっています。原発事故、コンビナート炎上、それに伴う計画停電、寒冷。これらの災害に対して何の手だてもなく、成されるがままの有り様を目にしながら両手を上げてただ叫ぶのみ、これほど人間の無力さを感じたことは未だかつて経験したことがありません。このことに対して復興に取り組む政治経済界、ほか各界の支援、また世界の国々の応援メッセージや支援等に、愛を感じて感動の思いで胸がいっぱいになります。今、復興に向けて可能な限り力を合わせる時であり、この事に対して、キリスト教会においても活発な支援活動が行われています。震災を通して、お互いが協力しあい、国難に対して国民全体が一つになって試練を乗り越えようとしています。今や、神のつぶさな眼差しは日本に向けられています。

キリストにあってひとつ

「わたしはもう世にいなくなります。彼らは世におりますが、わたしはあなたのみもとに参ります。聖なる父。あなたがわたしにくださっているあなたの御名の中に、彼らを保ってください。それはわたしたちと同様に、彼らがひとつとなるためです。」（ヨハネ 17:11）と、地上で業を成し遂げて、神の栄光を現された主イエス・キリストは一致のために祈られました。また「わたしは、あなたがわたしにくださった栄光を、彼らに与えました。それは、わたしたちがひとつであるように、彼らもひとつであるためです。」これは、やがて誕生するキリストのみ体なる教会のために祈られた主イエス・キリストの祈りです。

異邦人の使徒とされたパウロもまた、異邦人とユダヤ人の両者をひとつの体として十字架によって神と和解させるために、「敵意は十字架によって葬り去られた」と強調しています。パウロが叫んでいる「和解と一致」のスケールは絶大なものです。それは旧約と新約を一つにし、歴史を一つにし、世界を一つにし、万物の被造物をも一つにしてしまう程のものです。なぜなら、全ての創造の源は神ご自身だからです。私たちにとって、一致できない理由を並べるのではなく、一致できる点から始める事が大切です。

ペンテコステ、カリスマ派の一致

聖霊派の私たちにとっては、御霊によって一致が保てるのです。「平和のきずなで結ばれて、御霊の一致を熱心に保ちなさい。からだは一つ、御霊は一つです。あなたがたの召されたとき、召しのもたらした望みが一つであったのと同じです。」（エペソ 4:3-4）「遂に、私たちがみな信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身丈にまで達するためです。」（エペソ 4:13）とある通りです。聖書信仰に基づき、また御霊の助けにより、熱心に一致を保っていくことができると確信します。

「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなた方を愛したように、そのようにあなたがたも互いに愛し合いなさい。もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを全ての人が認めるのです。」（ヨハネ 13:34-35）主の愛で愛し合うことによって、主の弟子であることを他の人が認めることになります。パウロもまた、「これらすべての上に愛をつけなさい。愛は結びの帯として完全なものです。」（コロサイ 3:14）と言っています。

一致のために祈られた主の御心が成る時、それがリバイバルの備えとなり、そこに主も祝福を命じられると信じます（詩編 133）。今こそ一つとなる時です。

一致を目指して

単立ペンテコステ教会フェローシップ
中見　透

1. どのような一致を目指してきたか

1）交わりの共有

単立ペンテコステ教会フェローシップ (TPKF) は６５の単立教会の集まりであり、フェローシップを中心とした群れです。北欧諸国、アメリカ、カナダから来られた宣教師たちがそれぞれのところで宣教の働きを進めて来られましたが、相互の交りの必要性を感じ、交わりの場所としての大会が 1963 年「独立ペンテコステ大会」（現在の単立ペンテコステ大会）として開かれました。これは、単立諸教会の霊的一致を

目指した第一歩でした。組織よりもまず霊的一致、霊的交わりが優先され、み言葉の学びと聖霊の満たしへの飢え渇き、お互いの宣教地の働きの分かち合い、新しく救われたばかりの教会員の育成がそこにありました。

２）協力事業の共有

やがて、共通のペンテコステ信仰を養う「ちから誌」の発行が協力事業として発足し定着しました。「ちから誌」の伝道雑誌としての特色を明確にする必要から、機関誌としての役割を担う「ペンテコステ」誌も新しく発行されるようになりました。そして、共通の教学機関としてペンテコステ聖書学校が生まれ、関西校、関東校が発足しました。これは、お互いの一致が深められ交わりがさらに進められていく結果となりました。しかし、現在では、ペンテコステ聖書学校が取り止めとなり、関西聖書学院（ＫＢＩ）が主たる教学機関となっています。

2. 外部団体との一致

ＴＰＫＦとしてはＪＰＣ、ＮＲＡに連絡窓口となる人を送り、相互の交わりを持つ方向を進めてきました。ＪＰＣにはＴＰＫＦ全体として加盟し、ＮＲＡの加盟については各個教会の自主的判断に任せています。

１）ＪＰＣ

ＴＰＫＦは単立の性格を色濃く持ち、教団単位としての協力体制はありませんでした。しかし、ペンテコステ信仰に立つＪＰＣの集まりを通しての交わりと研修は有意義なものであり、井の中の蛙とならないための場を提供して頂いてきています。毎年春に持たれるＴＰＫＦ大会にはできるだけ各教団の先生方に講師として来ていただき、交わりを深めさせていただいています。

２）ＮＲＡ

聖霊によるリバイバルを飢え渇いて求める超教派の集まりがＮＲＡですが、ＴＰＫＦとしてもこの運動に協力をしていきたい願いがあり、連絡窓口を送ってきました。現在は常任委員、評議委員として参加させていただいています。ＪＰＣと重なる先生方が多数おられますが、日本中のリバイバルを求める諸教会と一致した歩みを願って入らせて頂いています。

３）ＰＡＭ

日本宣教を始めて下さった北欧諸国の宣教団体は、日本以外のアジアにおいても宣教活動の輪を広げ、アジア諸国のペンテコステ教団や教会との連携を深めています。ＴＰＫＦもこの世界宣教の輪に加わり始めています。

3. 今後の内外における一致についてのビジョン

１）危機感の共有

ここ 60 年の間に諸教会の老齢化がすすみ、以前と同じあり方では 10 年後の将来が危ぶまれる、という危機感が生まれてきました。地方教会の自主独立を尊重しつつ、ゆるやかな組織作りの模索が始まりました。持ち回りの議長システムを止めて 3 年任期のＴＰＫＦ全体の三役を選出し、ＴＰＫＦの交わりのマンネリ化、各個教会の老齢化、リーダーシップの世代交代等の危機感をお互いに共有し、ＴＰＫＦの交わりを通しての一致と再生を図っています。

２）宣教ビジョンの共有

今年のＴＰＫＦの方向性の一つとして掲げているのは、ＴＰＫＦのルーツとしての北欧諸国の宣教団体とパートナーとしての宣教協力を課題として取り組むことです。今後の日本宣教における可能性と協力体制を話し合い、お互いに世界宣教をすすめる事を視野に入れながらの会議が日本と北欧で持たれます。

3）連帯感の共有

キリストの体である教会を建て上げるうえで国内外の諸団体との連携は欠かせないものと考えます。お互いを尊重しつつ健康的な視野の広さを養う意味でも、交わりを通しての自己研鑽、神の国の多様な働きを知り、救霊のために信仰を熱く燃やされ、心を合わせて神の御心を成し遂げて行きたいと考えます。

一致

日本オープンバイブル教団
菅原　亘

日本オープンバイブル教団は全国 18 教会ありますがどこも小さな群れであり家族的な雰囲気を大切にしている教団です。関東教区、関西教区ごとに定期的（1か月～2か月に一度）に教職者たちが集い、祈祷課題を挙げて祈りの時、状況報告を行い、共に昼食と交わりの時を持つようにしております。60 年近い教団歴史の中で今まで一度も教団教職者の除名とか言うような大きな問題もなく、スキャンダルもなく、教団年会で意見が激しく対立したこともなく、平穏な関係で過ごして参りました。これは教職者ひとりひとりが温厚であり、成熟した大人の関係でもあります。小さいながら少しずつ一歩ずつ成長しております。教会数も年々増加しています。成長が停滞、低下したこともありません。

みな仲がよく親しい信頼関係を持っております。過激な発言、行動もありません。そんな家族であり仲間ですので特に一致のために何か意識をしようとすることもなく自然体ここまでやって参りました。「一致しないといけない」というメッセージが必要な時は危機的な時でもあります。

イエスさまが最後の晩餐の席上で最後のメッセージとして弟子たちの一致について祈り教え奨めをしております。弟子たちはとても個性豊かな連中でしたのでイエス様が去られた後のことがとても心配でしたのでそのように祈られたのです。12 弟子たちの背景を見ればそのことは一目瞭然であります。気の早いペテロを始めガリラヤの漁師たち、ローマからのユダヤ独立を目論む熱心党員の国粋主義者たち、政治的には右翼であります。また、まったく対極線にいる売国奴と思われていた取税人マタイ、野心家のイスカリオテのユダ、雷の子と呼ばれた気の荒いヨハネ、現実主義者の疑い深いトマス、理想家のナタナエル、これらの個性がぶつかり合い何かがあれば口論が絶えなかった弟子たちでした。こんな弟子たちでしたのでイエス様がいなくなればバラバラの集団となることは火を見るより明らかであります。ですからイエスさまは一致するように祈られたのです。

日本人は聖徳太子以来「和をもっと尊しとなす」を国是のようにしていますので、表面だってぶつかり合うこと、激しい口論、喧嘩し合うことを嫌う精神文化が伝統的に出来上がっています。その反面、内心反対、内心不愉快であるとの思いが潜在化して時差で別の形で表面化するので、問題修復にも時間が掛かる欠点もあります。その場で思いをぶつければその場で解決することでも、時間を経て来るのでその期間分だけ想像だけが実態以上に膨らみ問題がややこしくなってしまうこともあります。キリストにある一致とは成熟した大人の関係であって、気が合うとか言うレベルの問題ではありません。時には自分の意思を殺し、他人に合わせ従うことを要求されます。成熟した人の集団でなければなりません。同じゴールと方向を見つめ、達成手段においてはリーダーの指針に従うのです。リーダーが手続きを重んじるﾎﾞﾄﾑｱｯﾌﾟの合議制のタイプなのか、独自性の強い個性的なﾄｯﾌﾟﾀﾞｳﾝﾀｲﾌﾟなのか、はリーダー次第ですが、いづれにしてもリーダーを中心にゴールに向かって一致しなければ目的達成には余分な時間が掛かったり遠回りをすることになります。

また神の国の拡大を阻止しようとする悪の集団は、神の子供たちが仲たがいするように、分裂騒ぎを起こすように、憎しみ合い、誤解を拡大するように働きかけます。私たちは賢明でなければなりません。悪の組織は一致して神の国の破壊工作を実践しています。神の子たちが一致すれば大きな神の働きをすることを熟知していますので何とか知恵を駆使して行くのです。私たちはそのことを知る必要があります。罪から来る弱さ欠点、赦さない思い、苦い思いに足場を築き問題を拡大させます。私たちには弱さがあるので問題がなくなるわけではありません。しかし、神の愛や知恵によって問題を必要以上に拡大しないようにすべきです。1の大きさの問題は1の大きさで食い止めるべきです。それを10倍にも拡大させるのは悪魔の仕掛けです。

悪魔は人間に悪感情を起こさせ実態以上に問題を拡大させ一致を阻止します。要注意です。

さてわたしたちのオープンバイブル教団では他教団と教団単位で一致のために何かをしようとしたことはありません。各教会が超教派集会で一致して奉仕や参加をしますが、教団間における一致や交わりはこれから考えて行くこととなるでしょう。JPCを通して他教団との関係が深まって行くことを期待します。教団単位での共通の問題などを解決するために学んだりするのも良いでしょう。先に進んでいる教団をモデルにして学ぶのも良いでしょう。他の教団からは私たちにはない良いものを吸収して行きたいと願います。教団単位での交わりについては、別途に時間やビジョンを持ってエネルギーを注がないと実現不可能でしょうから、これからの課題となると思います。

教団一致の取り組み

シオン宣教団
大阪シオン教会　安達隆夫

私達シオン宣教団はわずか5教会の小さな群れでありますが、それぞれの所在地が大阪、和歌山、松江、金沢と点在しているため普段はあまり交わることがありません。そこで、教団が一致し、円滑に活動が行われていくために、（1）聖会・キャンプの合同開催、（2）講壇交換　を行うことにより、円滑な教団運営に取り組んでいます。

1）聖会・キャンプの合同開催

毎年8月のお盆の時期に2泊3日で行われる夏期聖会及びその前後に行うユースキャンプを通じて教団内のコミュニケーションを密にとるということが教団発足以来伝統的に行われています。聖会のメリットは

① 普段は接することのできない他教会の兄姉と寝食を共にすることによって、教会の枠を超えた有益な交わり関係が生まれる。

② 生まれたてのクリスチャンが、先輩クリスチャンの信仰生活を垣間見て、デボーション、朝の祈り、聖書通読など良い習慣に触れて刺激を受ける。

③ 日常の礼拝とは違う新鮮な気持ちで礼拝に臨み、ゲストメッセーンジャーの説教に耳を傾けることができる。

④ 各教会の信徒が協力し合って奉仕をするため、一致することの大切さを身を持って知ることができる。

この働きが同様にユースキャンプにも波及し、現在はユースの方が熱く、燃えて活動しています。各教会の距離を感じさせないほど頻繁に連絡を取り合い、曲のデータや楽譜などもメールでやり取りしながら、協

力して進められています。

一時は信徒それぞれの経済的負担、会場探しの難航、参加できない信徒の増加などで、休止を検討されたこともありましたが、行う度に得られる恵みの大きさを再確認し、工夫して継続していくことになりました。

したがって、従来は外部の宿泊施設で行っていた聖会を 2011 年は大阪シオン教会で行うことになりました。経済的な負担の軽減が主な目的ですが、それ以外にも大阪の信徒が、遠方から来る信徒のお世話をすることにより奉仕の精神を学びますし、祈りの積まれた礼拝堂で聖会をすれば一層豊かな聖霊様の臨在を体験できるということです。

メールやインターネットなど通信手段の進歩で簡単に連絡は取り合いますが、私達が一堂に会して受ける臨在と恵みは何物にも代え難く、この聖霊様の油注ぎが私達の教団をより一致へと導いてくださっていると信じております。

2）講壇交換

2009 年からスタートした講壇交換制度。牧師が年に一度教団の各教会を回って、説教をしています。交通費、宿泊費は教団負担とし、各教会は定額の謝礼を用意するだけで気軽に講師を依頼することができるようにして行っている。メリットは

① 他教会のために祈るようになる

他教会の牧師と交わる機会は多くありませんが、こうして定期的に訪問することを通して牧師との接点が生まれ、関係が良好になります。そして、信徒はその牧師のため、またその教会のために日々祈りに覚えるようになっています。

② 聖会に参加できない信徒が教団の存在を知る

聖会に参加できない人や最近救われてきた人にとっては教団の存在が分かりづらく、単立教会のような意識を持っている人もいます。牧師が訪問することで、教団の一員であることを認識させることができます。

また、近年はユースの働きが活発になりつつあり、聖会やキャンプ以外でも各教会が企画したユースの集会に他教会からもメンバーが行き来して親睦は深まりつつあります。従来の年中行事のようなイベントから、こうした各自の意識の高い交わりが行われ、互いの信仰に良き刺激を与えあうような関係になればと思っています。さらに、ユースだけでなく大人の聖会に関してもこのように目的を持った良き運営がなされていくことが今後の課題です。

「平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい」（エフェソ 4：3）

平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい

日本ペンテコステ教団
榮　義之

エペソ人への手紙で使徒パウロは、「ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです」（４：１３）と書いています。

日本ペンテコステ教団の信仰についての一致は、同じ信仰に立つ者たちの共同体なので、問題はそう多くありません。知識の一致はそれぞれの学んだことがらに小異はあっても、理解したことを分かち合うことにおいて解決し合うことができ、信仰と希望と愛に満たされる幸いを経験できるから幸いです。　３月２８日に日本ペンテコステ教団牧師総会が開催され、会堂を持たずに開拓伝道中の教会が７教会もあり、財政的に困窮を極めているところもあります。伝道支援に年間６０万円で協力することを決定し前進を祈りました。わずかのことを決めるにもなかなかですが、福音宣教のために協力し一致しつつ、アフリカ宣教や北朝鮮脱出者支援も推進しています。

また今回の東北関東大震災や福島原発事故被災地については、教団教会以外への義援金や炊き出しなどに、積極的に協力することも一致し決定されました。

超教派諸団体との交流は、生駒聖書学院がペンテコステ信仰以外の教団や単立教会からの卒業生も多いことから、大きな貢献をしていることも確認されました。超教派団体や大集会にも前向きに取り組んでいる教会も多くあり、それなりの諸団体との協力体制もできており、さらに協力の輪を広げるよう願っています。基本的には使徒信条を告白できるなら、特別なカルト的問題がなく、十字架と復活を信じている諸教会とともに、日本の福音化のために、心と祈りを合わせて取り組みたいものです。

聖霊のバプテスマが全世界のキリスト教会の流れとなり、ペンテコステ信仰が主流となりつつある時代の先駆けに、JPC とともになりたく祈り願いながらの日本ペンテコステ教団です。

大地震、大津波や原発事故発生の未曾有の危機が襲っているこのとき、すべてのキリスト教会が一致して、受けるよりも与えるほうが幸いであるとの神の愛を実践し、キリストの福音を伝え、霊の飢え渇きを満たす時であると信じ期待し祝福を祈ります。

「見よ。兄弟たちが一つになって共に住むことは、なんというしあわせ、なんという楽しさであろう。それは頭の上にそそがれたとうとい油のようだ。それはひげに、アロンのひげに流れてその衣のえりにまで流れしたたる。それはまたシオンの山々におりるヘルモンの露にも似ている。主がそこにとこしえのいのちの祝福を命じられたからである。」（詩篇 133：1 － 3）

調和のとれた一致に向かっていくために

神の家族キリスト教会
水野明廣

一致の重要性が解かっていることが大切

歴代誌Ⅱ　５：１３－１４　「ラッパを吹き鳴らす者、歌うたいたちが、まるでひとりででもあるかのように一致して歌声を響かせ、主を賛美し、ほめたたえた。そして、ラッパとシンバルとさまざまの楽器をかなでて声をあげ、『主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。』と主に向かって賛美した。そのとき、その宮、すなわち主の宮は雲で満ちた。・・主の栄光が神の宮に満ちたからである。」

詩篇１３３：１－３　「見よ。兄弟たちが一つになって共に住むことは、なんというしあわせ、なんという楽しさであろう。それは頭の上にそそがれたとうとい油のようだ。・・・主がそこにとこしえのいのちの祝福を命じられたからである。」 **賛美を住まいとされるお方の臨在こそ（詩篇２２：３）、私たちクリスチャン教会の特色である**し、この偉大な麗しいお方が共におられる現実こそ、私たちにとって、なくてはならない必須条件です。その昔、モーセが出エジプト記３３章１６節において、「･･･(主よ）あなたが私たちといっしょにおいでになって、私とあなたの民が、地上のすべての民と区別されることによるのではないでしょうか。」と言っているように、確かに主イエス・キリストが生きておられて共におられるという、この栄光の現れのために本物の一致が求められています。しかも、その調和によってもたらされる一致の中にこそ、神の祝福された生活のすばらしさが現れます。

何よりもイエス様こそ、御自身を信じる者の一致を祈られたし、今もとりなして祈っておられるので、**私たちも見習って祈るべき最優先事項です**。ヨハネの福音書１７章２１～２３節において、「それは、父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにいるように、彼らがみな一つとなるためです。・・・世が信じるためなのです。・・・栄光を、彼らに与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つであるためです。・・・彼らが全うされて一つとなるためです。・・・愛されたこととを、この世が知るためです。」と祈っておられます。さらには、初代教会の使徒パウロの教えは、ローマ人への手紙１２章５節で「大ぜいいる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、ひとりひとり互いに器官なのです。」、コリント人への手紙第一１２章２７節で「あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとりは各器官なのです。」、エペソ人への手紙２章１９節～２２節で「こういうわけで、・・・神の家族なのです。・・・キリストにあって、あなたがたもともに建てられ、・・・神の御住まいとなるのです。」。これらの書簡に書かれている通りに教会の一致の意義を伝え、そのために多くの事柄が伝えられています。一致は個人と主との関係から、次に近くにいる信仰の家族や兄弟姉妹の中にあり、さらには地方教会の中に、そして多くのキリストを信じる者の群れへと拡がるものと確信していますので、そのことのために教えを強調します。

一致への方法論としては、使徒行伝で初めて、聖霊の注ぎによって一致が生まれ、そこから教会が生まれたように、聖霊の満たしと導きをいつも求めながら生きることと、霊とまことの賛美礼拝の充実、そしてイエス様が愛されたように互いに愛し合う者になれるように励まし続けます。

一致のための３つの「ツール」

日本フォースクエア福音教団
佐藤成紀

イエス・キリストを信じる私たちは、主にあって一つとされています。しかし、私たちの敵対者であるサタンは、その一致を破壊しようとして日夜働いていることも事実です。初代教会では、一致が崩壊しそうな危機が少なくとも３回ありました。しかし、その都度、彼らはそれぞれ違った「ツール」（手段）を用いて、危機を乗り越えることができました。私たちの教団の取り組みも、そのような観点から振り返ってみたいと思います。

一致に対する第一の危機は、ギリシヤ語を話すユダヤ人たちが増えた時のことです。文化が異なり、言葉の通じない人たちが急激に増えたことにより、教会指導者たちの目が隅々にまで届かなくなりました。不満を放置すれば、教会分裂にもつながりかねない危険性がありました。この問題に対処するため、異文化ミニストリーを担当する「コア・リーダー」（核となるリーダー）たちが選ばれ、その働きがゆだねられたのです。

私たちフォースクエア教団も、10数年前から外国人の牧師たちが増加しています。異文化に関心のある日本人に伝道したり、また日本で生活する外国人たちに伝道したりしています。異文化を理解する「コア・リーダー」たちを発掘し働きに派遣することは、異なる背景で育ったクリスチャンたちとの一致を保つため、必要不可欠な第一の「ツール」です。

第二の危機は、異文化リーダーの一人であったステパノの殉教直後に訪れました。エルサレムの教会はユダヤ、サマリヤ諸地方に散らされ、一箇所に集まることができなくなったのです。今のように通信手段が発達している時代ではないので、離れた場所に行けば連絡が途絶え、方向性がずれていく危険がありました。この危機に際し、ペテロやヨハネはサマリヤに派遣されました。ピリポは「すべての町々」（使徒 8:40）を訪問し、ペテロは「あらゆる所」（使徒 9:32）を巡回しました。彼らは、「コミュニケーション」の重要さを理解していたのです。

外国人牧師が増加した私たちの教団でも、コミュニケーションには力を注いできました。ほとんどの公式の集会には英語とポルトガル語の通訳者をそれぞれ立て、書類は翻訳者たちの働きにより３ヶ国語で作成してきました。年一度の大会の他、最低年４回の教区の集まり等を通し、教職者間の交わりと励ましを心掛けて来ました。もちろん、電話やメールも活用されています。「コミュニケーション」は、一致のための第二の「ツール」です。

初代教会が経験した第三の危機は、異邦人の救いに関する神学論争でした。「異邦人は割礼を受けなければ救われない」とある人々が主張し、パウロやバルナバたちと真っ向から対立したのです。明らかにこれは、神学的な相違に基づく教会分裂の危機でした。使徒たちと長老たちがエルサレムに集まり、この問題について激論を交わした結果、異邦人は割礼を受けなくても良いことになりました。衆議の末に得られた「コンセンサス」（合意）によって、教会の一致が保たれたのです。

私たちの教団も、「コンセンサス」を大切にしています。コンセンサスに基づき教団規約を作成し、現在もコンセンサスに基づき会議の運営をしています。すぐに合意が得られない場合は、時間をかけ、議論を尽くすようにしています。言葉や文化を超えて一致を保ち続けるため、「コンセンサス」は欠くべからざる第三の「ツール」と言えます。

東日本大震災の支援にあたっては、私たちの教団以外のキリスト教諸団体と一致、協力して取り組むことも不可欠となっています。コア・リーダーの発掘、コミュニケーション、コンセンサスという３つの「ツール」を効果的に活かすことにより、今後とも教団内外における主にある一致を保ち、神の国拡大のために力を尽くしていきたいと願っています。

「一致」

日本チャーチオブゴッド教団
八束選也

１．教団信徒修養における一致

当教団は、本来教会政治においては監督制ですが、運営面では各教会の自治に大きな部分を委ね、前任の八束和心先生を中心に教団としては霊的一致を目指してきました。毎年行われる新年聖会、五月聖会、そして海外の教団講師が来日した時の特別集会を通して、教団すべての信徒を対象に信徒修養を目的に聖会を行い、霊的一致を保ってきました。これら聖会の運営は、各教会の信徒リーダー達が協力し合って建て上げています。

2．教団ユース＆次世代リーダー育成における一致

当教団では、長年にわたり年二回の春のキャンプと夏のキャンプ、その後に行われる「再会の集い」を通して、ユース世代の救いと成長に教団として一致して取り組んできました。１つの教会では出来ないことでも、複数の教会からユース担当の教職と有能な社会人スタッフも協力し、春と夏、３泊４日ずつキャンプを建て上げています。また、３年程前から教団若手教職５人が集まり、Harvest&Training Project と題して次世代リーダー育成の為の共通のテキストを作成しています。このテキストを用いて、各教会の牧師の指導の下、世代が協力し合って建てあげていく、新しい時代の教会が築き上げられると信じています。

3．教団教職研修における一致

当教団では、ペンテコステ親交会主催の教役者大会、ペンテコステ協議会主催の研修会、そして、秋に当教団主催の教団教職研修会を通して、教職の神学的、牧会的見解の一致を図ってきました。それぞれ、教会成長、神学牧会、交わりと主眼は違いますが、教職が時間を取り、神の前で同じ霊的恵みを受け取る時間、お互い共に交わる時間を持つことを通して、教団の一致を保っています。

4．教団内規作成における一致

今日に至るまで、当教団は祈りと話し合いによって麗しい一致を主が与えてくださいましたが、今後の世代が一致して教団運営にあたることができるように、現在教団内規作成プロジェクトを新たに立ち上げました。教職の世代や、教会の成長段階、多国籍の教会など、以前のような全部開拓教会という単一文化ではない現在、今後の教団運営にはどうしても多様性の一致が必要です。日本アッセンブリーズオブゴッド教団や日本フォースクエア教団など、素晴らしい模範に習い、一致の為包括的な内規を作成する予定です。

5．教団歴史共有における一致

当教団は、来年に日本宣教６０周年を迎えようとしています。この節目に、神が当教団に与えてくださった神の恵みの記録を共有することによって一致が深まると信じています。また、初代宣教師を送り出した米国教団本部、初代宣教師をお世話してくださったアッセンブリーズオブゴッド教団の宣教師達、横浜聖書学院を共に運営したオープンバイブル教団の牧師先生方等、多くの方々の協力をいただき、恵みの中で今があることを覚えるとき、教団を超えたキリストの身体なる教会に感謝すると共に、一致への使命を見出すのです。

【お知らせ】

災害救援活動のため、**イエス・キリスト福音の群**から原稿をお送りいただくことができませんでした。　被災地、救援活動中の教会のためにお祈りください。

日本ペンテコステ協議会総会雑感

日本ペンテコステ協議会書記　永井信義

2010年11月30日（火）12:00～16:00、9教団から15名が出席し、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団理事室にて、2010年度の日本ペンテコステ協議会総会が開催されました。

細井眞議長のあいさつ、昼食と交わり、会計の船津行雄師によるデボーション（マルコの福音書16章15節）の後、出席者の紹介、前回の議事録の承認の続き、以下のような報告がなされました。

① 細井眞議長からスウェーデン、ストックホルムで開催されたペンテコステ世界大会の報告がなされました。また、同大会に参加した中見透副議長、永井信義書記からも感想などが分かち合われました。

② 永井信義書記から南アフリカ、ケープタウンで開催されたローザンヌ世界宣教会議の報告がなされました。

続けて、会計より2010年度会計の報告があり、承認されました。

さらに2011年度日本ペンテコステ協議会活動について話し合われ、以下が計画されました。

① 日本ペンテコステ協議会研修会

日　時：2011年6月21日（火）11：00～16：00

場　所：日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団神学校チャペル

会　費：一人2,000円

プログラム：

11：00～12：00	礼拝　司会：川本泰彦師（神の家族キリスト教会） 説教：吉永豊師（ＪＯＢ町田聖書教会）
12：00～13：30	昼食と交わり
13：30～16：00	講演　司会：安達隆夫師（シオン宣教団） テーマ：セレブレイト・リカバリー 講師：尾山清仁師（聖書キリスト教会） （15分間程度の休憩、Q&Aを含む）

② 2011年度日本ペンテコステ協議会総会

日　時：2011年11月29日（火）12：00～16：00

場　所：日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団理事室

ＪＰＣニュースに関しては、第八号は日本フォースクエア福音教団によって担当され、テーマは「一致」、2011年6月21日（火）に行なわれる研修会において配布されることが確認されました。（なお、第九号は日本ＮＴＭ、第十号は日本ペンテコステ教団の担当によります。）

また、ＪＰＣの拡大に関して意見の交換がなされました。三坂正治師より日本のペンテコステ、聖霊派を代表する、また、一つにまとまることができるような団体（グループ）、窓口の必要性があることが分かち合われ、これに対する質問や意見が交換されました。

小グループに分かれて議論がなされ、それぞれのグループで話し合われた内容

① 研修会への参加を広く呼びかけること

② ＪＰＣのリーダーシップによる連絡会のような存在の必要性

③ 準会員（5 教会以上のグループ）という形でのＪＰＣへの参加

④ 「信仰宣言」を変更せずに宣教のために一致する方向性を探ること

などが報告されました。

ＪＰＣから呼びかける形でペンテコステの一致のために一歩を踏み出すこと（連絡会など）が承認され、ＪＰＣの拡大に関しては役員会で継続して審議、さらに詳細を検討することが確認されました。

八束和心師が病気のため、副議長を辞したい旨、申し出があったことが、八束選也師より報告されました。この辞任の申し出を受け、次のような提案がなされました。

① 議長が選任する

② 日本チャーチ・オブ・ゴッド教団の代表代行が残りの在任期間を担う

③ 改めて副議長を選ぶ

④ 規約では副議長の人数について明記されていないので空席とする

決議の結果、議長によって選任されることが決定され、後日、議長より発表されることが確認されました。（八束選也師が副議長に選任されました。）

2011 年度予算案（別紙）が会計によって説明され、検討の後、承認されました。

以下のイベントが紹介され、各教団からの近況と祈祷課題が報告され、それぞれのために祈る時を持って、総会が閉じられました。

① Empower21　2011 年 10 月 25~28 日（ジャカルタ）

② 日本ペンテコステ親交会主催教役者大会　2011 年 2 月 1~4 日（つま恋）

追記：日本ペンテコステ協議会の発足の準備段階、そして、発足後は長い間副議長としてご尽力くださいました八束和心師が 3 月 30 日、召天されました。これまでのお働きのすべてに感謝するとともに、ご遺族の上に主よりの慰めが豊かに注がれますよう、心よりお祈りいたします。

日本ペンテコステ協議会規約

1) 本会は、名称を『日本ペンテコステ協議会』(Japan Pentecostal Council 略称 JPC) とする。

2) 事務局

本協議会の事務局を日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団本部に置く。

3) 目的

本協議会の目的は、日本におけるペンテコステ信仰の健全な成長と発展を促進するために、ペンテコステの教団及び教団に準ずるグループの指導者・教職者間における交流を深め、情報交換及び相互理解を図り、教職研修を行うことにある。

4) 信仰宣言

本協議会の構成員は、以下の信仰宣言を告白するものとする。

1. わたしたちは、聖書が霊感された、唯一の誤りのない権威ある神の言葉であることを信じる。
2. わたしたちは、父と子と聖霊の三位において永遠に存在される唯一の神を信じる。
3. わたしたちは、わたしたちの主イエス・キリストの神性、処女降誕、罪のない生涯、奇跡、十字架の血による代償的贖罪的犠牲、肉体をもっての復活、父の右の座への高挙、また、力と栄光の中での再臨を信じる。
4. わたしたちは、失われた罪人のためには、みことばと聖霊による新生が不可欠であると信じる。
5. わたしたちは、異言の証拠を伴う聖霊のバプテスマを信じる。
6. わたしたちは、聖霊の今日的働きによる肉体の癒し、および種々の聖霊の賜物を信じる。
7. わたしたちは、聖霊の内在によって清い敬虔な生活が可能となることを信じる。
8. わたしたちは、わたしたちの主イエス・キリストにおける信者の霊的一致を信じる。
9. わたしたちは、聖徒の復活、失われた者の審判、新天新地を信じる。

5) 活動

定期的に会議を開催し、各教団及びグループの指導者・教職者間の交流、意見・情報の交換、研修その他必要な活動を行う。広報誌と機関誌を発行する。

6) 総会

本協議会は最高議決機関として総会を置く。総会は、加盟教団にそれぞれの教会数に応じて割り当てられた数の代議員によって構成する。

50 教会以下	代議員 1 名
51 ～ 100 教会	代議員 2 名
101 教会以上	代議員 3 名

7) 役員

本協議会に議長、副議長、書記、会計を置き、その任期を 3 年とする。役員会は議長によって収集され、定期的に開催する。

8) 経費

本協議会の経費は、加入団体の負担とする。

9) 附則

本規約は、1998 年 5 月 29 日より実施する。この規約の変更は総会の議決を経て実施する。

また、2003 年 3 月 25 日に改正された。

日本ペンテコステ協議会 (JPC)2010 年度会計決算報告

2009 年 11 月 1 日～ 2010 年 10 月 31 日

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
負担金	470,000	総会	12,270
研修会　会費	74,000	役員会	43,418
		研修会	96,722
		PWF 負担金	40,945
		JPC ニュース	23,000
		新聞広告	35,700
		事務諸費	405
		ペンテコステ世界大会代表参加費補助	100,000
		雑費	14,000
小計	544,000	小計	366,460
前年度繰越金	928,173	次年度繰越金	1,105,713
合計	1,472,173	合計	1,472,173

< 負担金明細 >

神の家族キリスト教会	2008 年～ 2010 年	５０，０００円
単立ペンテコステ教会フェローシップ	2010 年	４０，０００円
日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団	2010 年	１５０，０００円
シオン宣教団	2010 年	３０，０００円
日本ネクスト・タウンズ・ミッション	2010 年	５０，０００円
日本チャーチ・オブ・ゴッド教団	2010 年	５０，０００円
日本オープンバイブル教団	2010 年	３０，０００円
日本ペンテコステ教団	2010 年	３０，０００円
日本フォースクエア福音教団	2010 年	３０，０００円
イエス・キリスト福音の群	2010 年	１０，０００円

< 新聞広告 >

クリスチャン新聞　クリスマス広告　３５，７００円

会計　船津行雄

日本ペンテコステ協議会　加盟団体一覧

（各教団代表は、2011 年 5 月現在）

●日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団　理事長　細井 眞

連絡先　日本 AOG 教団本部　〒 170-0003　東京都豊島区駒込３－１５－２０
TEL.03-3918-5935 FAX.03-3918-0474

●日本ネクストタウンズ・ミッション　代　表　三坂　正治

連絡先　松坂キリスト福音教会　〒 515-0812　三重県松阪市船江町４５２
（藤田 光康牧師）　TEL&FAX.0598-23-9648

●単立ペンテコステ教会フェローシップ　代　表　中見　透

連絡先　御殿場純福音教会　〒 412-0024　静岡県御殿場市東山７１１－２４
TEL.0550-82-2872 FAX.0550-82-7233

●日本オープンバイブル教団　代　表　菅原　亘

連絡先　神戸キリスト栄光教会　〒 653-0845　兵庫県神戸市長田区戸崎通３－９－１２
TEL.078-612-5511 FAX.078-621-5513

●シオン宣教団　代　表　松本　光弘

連絡先　松江福音教会　〒 690-0001　島根県松江市東朝日町２０６－４
TEL& FAX.0852-31-9368

●イエス・キリスト福音の群　代　表　永井　信義

連絡先　東北中央教会　〒 981-3604　宮城県黒川郡大衡村ゴスペルタウン
TEL.022-345-2991 FAX.022-345-2992

●日本ペンテコステ教団　代　表　榮　義之

連絡先　生駒聖書学院　〒 630-0243　奈良県生駒市俵口町９５１
TEL&FAX.0743-74-7622

●神の家族キリスト教会　代　表　水野　明廣

連絡先　クリスチャンライフ　〒 464-0094　愛知県名古屋市千種区赤坂町４－６４
TEL.052-721-7831 FAX.052-721-7625

●日本フォースクエア福音教団　総　理　佐藤　成紀

連絡先　ホープチャペル所沢　〒 359-1125　埼玉県所沢市南住吉１０－８
TEL&FAX.04-2922-7716

●日本チャーチ　オブ　ゴッド教団　監　督　八束　選也

連絡先　東京ライトハウスチャーチ　〒 146-0093 東京都大田区矢口２－１－１８
TEL.03-3758-1625　FAX.03-3758-1647

JPC NEWS

Japan Pentecostal Council

Japan Pentecostal Council News
2011.06 Release

日本ペンテコステ協議会
【事務局】
日本アッセンブリー・オブ・ゴッド教団本部内
〒170-0003　東京都豊島区駒込 3-15-20
TEL : 03-3918-5935　FAX : 03-3918-0474